

浄泉寺報

第3号
2015年
報恩講



報恩講 御伝鈔拝読

報恩講って何？

浄泉寺住職 望月廣三

ほう おん こう
恩に報いる集い(報恩講)とは、
いったい何だろうか…、と奇異
な思いをする人が少なくないで
しょう。年忌法要とかお盆とかお
彼岸のお参りなどはご先祖の供
養として認識できますが、「恩に
報いる」とはどういうことか、い
や、そんなことよりも現代におい

ては死語に近い「恩」そのものに
対して、戸惑いをさえ覚える人が
多いだろうと思います。

しかもこの恩は、浄土真宗の開
祖、親鸞聖人に対してです。聖人
は、仏さまを信じなさい、と強く
勧めました。なぜなら、本当に信
じられたら、自分自身の運命をす
べて仏様に「お任せ」できるから
です。任せることができれば、ど
んなに不安や心配があっても、そ
れに深く執らわれ、自身を見失っ
てしまうことがないからだ、と教
えています。それはそうでしょう。
私たちの不安や心配は自身に深
く執着することから生じるもの
に違いないからです。この「我執」
こそが、不安や心配を生む根源で
す。

とはいえ、仏さまにすべてお任
せすることは、とても難儀なこと

です。それというのも、私たち人
間は自分自身に常に不安を抱き
ながらも、そんな自分に愛想尽か
しができない、というか、実に未
練がましいと言わざるを得ない。
そのために、常に不安に脅えるの
です。

しかし、自分に愛想を尽かし、
仏さまを心底から信じることは、
聖人にとっても容易ではなかつ
た。全身全霊をささげて真に安ら
ぐ世界(安養の浄土)を求められ
たのです。私たちにおいても、そ
れは同じです。どれほどしんから
安らぐ世界を求めていること
か…。そしてそれを可能にする
のが、浄土真宗の教えなのだ、と
聖人は断言されたのです。



・若坊守のひとりごと・

子どもの頃、実は報恩講のお齋
があまり好きではありませんで
した。肉や魚のないお精進も物足
りないし、大勢のご門徒さんの中
で食べることは緊張すること
でした。なによりお齋はただの食事
の時間だと思っていました。

しかしこのお齋は、親鸞聖人の
御命日を縁として、お寺で教えを
聞くために集まった人達が、皆で
いただく食事です。そして、日頃
肉や魚など多くのいのちをいた
だいて、自分は生かされているの
だというこの身の事実を知る。い
のちをいただくということは、食
べ物そのものが如来であるとい
うことです。そのような教えを聞
くという意味でも、お齋も大切な
仏事の一つなのです。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏（仏壇）に座る ③ ～ 宗祖 親鸞聖人(1) ～

このコーナーでは、皆さんのご家庭にあるお内仏（仏壇）についてのアレコレを連載します。



浄泉寺の本尊右側の厨子に掛けられた親鸞聖人のお軸

報恩講とは、親鸞聖人の御命日をご縁としてお勤めをし、仏法を聞き、お斎を食し語り合い、丸裸の”ひとり”として私自身と出遇った者同士が朋として出遇う場です。

私たちは、親鸞聖人を宗祖としていただいています。では、親鸞さんとはどのような方だったのでしょうか？親鸞さんの90年の生涯をこの紙面で語りつくすことはできませんが、一言で言えば、親鸞さんは「決して人間を誤魔化さなかった人」であろうと思います。

親鸞さんは9歳でお坊さんになり、29歳まで比叡山で修行をされます。その当時の仏教は、一生懸命修行（努力）をして、それを成し遂げた人が救われていくようなものが主流でした。しかし、どれだけ真面目に修行に打ち込もうと、真面目になりきれない人間の本性に気づかされ、それと格闘し、最後には山を下りたのが親鸞さんです。例えば、肉や魚を食べずとも、米や野菜を育てるにも土を耕し虫を殺し、他のいのちを奪わずには食べることさえ、生きることさえできない人間の有様を誤魔化さず、まるごと包み込む教えを示してくださったのが親鸞さんなのです。

（浄泉寺若院・釋亜世）



2015年11月22日、本山(京都・東本願寺)の御正忌報恩講に団体参拝してきました。

お寺からのお知らせ

● 修正会 ●

一月二十四日(日) 十一時半～

お勤め

法話・望月廣三住職

鍋を食べての新年会

楽しいビンゴ大会あり！

会費…千円

● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬にお葉書でお知らせします。お寺での彼岸会にもお参りください。

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職の法話をお聞きいただいた後、皆さんでお茶を飲みながらお話します。どなたでもお気軽にご参加いただけます。詳細な日程はお寺までお問い合わせください。

<発行元・問い合わせ>

真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43 電話 0799-22-4798